



# ののみ まるごとミュージアム



## 第1回 灯台笹遺跡

今回から隔月でお届けする「ののみまるごとミュージアム」。能美の歴史や文化、自然などを博物館「ミュージアム」のように、ご紹介します。

記念すべき第一回は、能美のあけぼの、この地に人類が足を踏み入れた痕跡が初めて見つかった灯台笹遺跡をご紹介します。

昭和33年、一人の少年が、石川県の



灯台笹遺跡

歴史を変える発見をしました。当時、中学生だった田中勲さんは、夏休みに大作の石器研究を発表するほど考古学好きの少年でした。休日には土器や石器の採集を行っていたそうです。この年の3月、田中さんは灯台笹の畑から少し離れた草原に「白いもの」を見つけました。手に取ってみると、明らかに人の手で加工された石でした。この石のかげらこそが、県内で初めて発見された約2万年前の旧石器時代の石器だったのです。当時の感動について田中さんは、「石の槍先、尖頭器をズボンのポケットに入れて両手で押さえながら、うれしさを隠しきれずに、小躍りして坂道を駆け降りたことを、50年たった今でも鮮明に覚えています」と手記に寄せられています。

その後、この発見がきっかけとなり、県内初の旧石器時代遺跡の発掘調査が行われました。

旧石器時代と聞いてどのような生活を想像されるでしょうか。この時代は、とても寒い時代で、平均気温は現

在よりも7〜8℃低かったと考えられます。氷河などの発達により海面が低下し、本州・四国・九州はひとつの陸地となり、北海道は大陸とつながり、幅が狭まった海峽を渡って、人々や動物が大陸と日本列島を移動していたと考えられます。こうした環境の中で、人々は獲物を求めて各地を転々とする遊動生活を送っていました。

灯台笹の丘陵では、灯台笹遺跡以外にも旧石器時代の遺跡が発見されており、石器を作ったり、手入れをしたりしたときに出る剥片も多く見つかっています。旧石器人たちは、手取川に水を求めてやってきた動物をとらえるため、丘陵から狙いを定め、石器の手入れをしていたのかもしれない。

2020年開館予定の新博物館では、今回ご紹介した、少年が見つけた尖頭器の実物や、旧石器時代の石器をご覧いただけます。ぜひ、実物から2万年の時の流れを感じてみてください。

文：博物館事務局

## ひぼ・ゆずの 53 でえこっさ



市内には資源を収集するリサイクルセンターが3か所あります。場所と開場日は次のとおりです。時間は9時～12時です。

- 根上くるくる工房（中町ソ76）……………毎週土曜日
- ふれあいリサイクルセンター（寺井町を45）…毎週土・日曜日
- 辰口リサイクルセンター（岩内町カ40-1）……毎週日曜日

缶、びん、ペットボトル、小型家電、金物、廃食油、プラ、紙類を出せます。（根上くるくる工房ではプラと紙類は出せません。）  
詳しい分別方法はシリーズでお伝えします。

問 生活環境課  
(☎ 58-2217)



## 人口と世帯数

2019年4月1日現在

- 人口 50,053人  
(前月比-186)  
男 24,833人 女 25,220人
- 世帯数 18,904世帯  
(前月比-66)

「広報のみ」は再生紙を使用しています。